

建学の精神およびキリスト教教育について

聖学院大学は、「教育基本法」に基づき、わが国に存在する国公立・私立の大学、さらにはキリスト教諸大学の中でも、特筆に値する固有の「理念」(P.2 参照)をもって出発した大学である。同頁に示されたこの理念は本学設立に関わった人々の熱い祈りと深い思索と対話の結晶である。

聖学院大学には、この理念と並んで「神を仰ぎ、人に仕う」という建学の精神がある。これは大学設立のヴィジョンをかねてより抱かれた聖学院元理事長・故小田信人先生が、聖学院創設に尽力された先達らの教育理念から抽出された言葉である。この建学の精神に加え、図書館棟壁面に掲げられたラテン語による *pietas et scientia* 「敬虔と学問」とギリシア語による *ἡ ἀλήθεια ἐλευθερώσει ὑμᾶς* 「真理はあなたたちを自由にする」(ヨハネによる福音書 8 章32節 b) の二つも、本学の教育の目標を示す大切な言葉である。

倫理が荒廃する中、科学の進歩が目的も知らずに暴走する勢いにあり、またあらゆる分野で知識が増大し、かえって知恵が貧しくなり青少年の学力崩壊現象が起きている。本学は大学の営みの中枢に礼拝を持っている。そこで私たち自身の貧しさや神からの愛を知る。神の見守りという堅固な存在基盤のもと、私たちは学問の本当の目的を知りつつ、喜びをもって学問探究に励むことができるのである。正に「敬虔と学問」である。また、私たちが本学で真理を学ぶことにより、人間は種々の人間的先入見に囚われることなく、神に示された真の自由への突破口のあることを知る。真理は敬虔の世界から到来し、私たちは本学で学ぶ中で神によって自由に育てられていく。正にイエス・キリストが告げられるとおり、「真理はあなたたちを自由にする」と。

以上のごとき理念や建学の精神、さらに「聖学院教育憲章」(P.6 参照)のもとに、本学のすべての営みが導かれている。入学式、創立記念行事(10月31日、宗教改革記念日)、卒業式等々、本学のすべての公式学事がキリスト教の礼拝の形式をもって執り行われるのもこの理由によるものである。さらに週4回の「全学礼拝」はこうした理念や建学の精神の故に、本学が最も重視しているものである。そこでは聖書を基にして福音が語られ、霊的に成熟した人格の形成が可能となるのである。この意味で少なくとも週に1度、自発的にチャペルにおける全学礼拝に出席することが期待される。

また、「アッセンブリアワー」は各学科の学びに必要な現代社会における諸問題や諸文化理解に必要な基礎講演や体験学習などを学生と教師が一体となって学ぶ、聖学院大学に特徴的な全学的フォーラムである。

本学のキリスト教教育は、キリスト教科目の中の「キリスト教概論」およびキリスト教関連科目、「キリスト教社会倫理」、「キリスト教文化論」、「キリスト教人間学」等の講義においても展開される。また、本学は近代世界の成立と展開に独特な貢献を果たしてきたプロテスタント・キリスト教を学問的に探求し、新しい時代の形成に貢献できる大学を目指している。学生諸君には授業において各教師の学問的実力と人格に親しく触れ、大学における学問の本質を経験し、またその醍醐味を味わっていただきたい。